



一年生に学ぶ「思いやり」

清水小学校 六年 山内 梨花

四月。新六年生としての学校生活が始まりました。新しい学習が始まったり、委員会活動や登校班で下学年をまとめたりと、いそがしい毎日が続きました。

一週間後にむかえた入学式。在校生代表として、私たち六年生も参加することができ、一年生のお世話をがんばりました。入場までの時間で本の読み聞かせをしたり、トイレに連れて行ってあげたり、手をつないで入場したりしました。きちんちようしている一年生に安心してもらうのは大変でした。

次の日から、一年生の学校生活のお世話を始めました。まずは、登校班です。一年生のペースに合わせながら歩くのが、なかなかむずかしいと感じました。学校に着いたら、いっしょに教室に行つて、朝の準備の手伝いをします。どこに何を入れるのかを、一つでできるだけていねいに教えてあげています。準備が終わつたら、いっしょに遊びに行きます。元気いっぱい的一年生

と遊ぶのは楽しいけど、ちょっとつかれます。自分の準備を始められるのは、その後です。

そんなバタバタしている毎日の中でも、一年生から学んだことがあります。それは、「思いやり」をもつことの大切さです。はじめは大変で、つかれるので、正直に言えばやめたいなと思うこともありましたが、一年生は、学校生活のいろいろなことが初めてで、分からないことだらけです。私にとって当たり前なことでも、一年生にとっては当たり前じゃないんだと考えるようになりまし。

今までは、なんとなくやさしくすることが思いやりと思つていましたが、一年生との関わりをとおして、「相手の立場に立つて考える」ことが思いやりなんだと思ひました。一年生から学んだ「思いやり」を、これからも大切にしたいです。

【先生のコメント】
一年生のお世話について「大変」「やめたいと思うこともあった」と感じていたことを、この作文で初めて知りました。それほど、一年生のお世話について、手を抜かず一生けんめいしていた梨花さん。「思いやり」の意味を、その大変さとともに実感することができたようです。梨花さんのような相手を感じる心が、六年生全体に広がり、そして学校全体に広がっていくといいなと思います。



みんなの幸せ願って

みやまに生きる人 vol.147

自動車钣金塗装業

戸田 諒さん

高校卒業後、自動車関係の仕事に携わっている戸田諒さん。立花町の出身で、6年前に山川町に引っ越し、その後「R・A・U・T・O」を開業。主に自動車の钣金・塗装を行っている。「父の友人の自動車整備工場に遊びに行っていました。そこでの仕事に憧れがあり、今の仕事に携わるようになりました」
状態を見極め、作業開始
「仕事を始めた当初は、先輩たちの作業を見て学びました」と振り返る戸田さん。傷やへこみがある部位をたたいたり削ったりした後、パテで平らにする。その後、塗料を混ぜ合わせて修理部に合う色を作つて塗装する。

「小さな傷から大きなへこみなど、車の状態はそれぞれ違います。車の作り方や素材も変わってきているので、どのように直していくのかを考えながら、実際に作業を進めることは面白いです」

丁寧な作業が売り

钣金・塗装は気温や湿度によって塗料の伸び方が異なるため、夏や冬は特に丁寧な作業が必要とのこと。

「自分が納得するまで丁寧に仕事をしています。作業が完了して、お客さんのホッとした顔を見ることができたときに、満足感とやりがいを感じます」

地域のつながりを大切に

戸田さんが新しい土地で開業する際に心がけたことは、地域との関係づくり。消防団と商工会にも所属しており、その活動を通して信頼を積み重ねている。「現在は花火大会の開催に向けて活動しています。Tシャツ委員会として花火Tシャツの作成にも携わりました。町おこしに積極的に参加して、地域の皆さんに信頼され、任される存在になりたいです」



とだ りょう
趣味は海釣り。
【座右の銘】
為せば成る、為さねば成らぬ、何事も、成らぬは人の為さぬなりけり
【みやま市にひとこと】
農作物が豊富で交通の便も良いので、より良い場所になるように協力していきたいです。

7月は「同和問題啓発強調月間」です

【みやま市人権啓発映画上映会(無料)】
■映画「破戒」119分(原作 島崎藤村、監督 前田和男、主演 間宮祥太郎)
▼日時 7月29日(土)午後2時(開場 午後1時30分)▼場所 しまいピア高田 多目的ホール▼申し込み不要▼託児あり(要予約)
■社会教育課 人権・同和教育係
(Tel 32・9184)



【同和問題啓発強調月間講演会(無料)】
▼日時 7月22日(土)午後1時30分(開場 午後0時30分)▼場所 日市原プラザ(春日市原町)▼講師 フリーライター・角岡伸彦氏

【福岡県人権啓発情報センター特別展】
■日常の中にある部落差別
〜マイクログレッションつてなに?〜
▼期間 7月22日(土)〜9月30日(土)午前9時〜午後5時▼場所 日市原プラザ(春日市原町)▼入場料 大人200円、高校生100円、中学生以下・65歳以上無料
■(公財)福岡県人権啓発情報センター
(Tel 092・584・1271)

みやま文芸

青門瀬高俳句会

水張りし棚田の空の四百ほど

吉岡 木骨

生きがたき身を藤椅子に軋まする

池田 芳水

一日の身を委ねたる万緑裡

高巢 幸子

まといつく一匹に焚く蚊遣香

阿部 和子

行者杉修験の道の木下闇

戸塚貴美代

万緑やうねうね続く由布高原

橋本美恵子

水の惑星深さ五寸の代を掻く

河野 辰男

みやま短歌会

オムライスパリパリ卵焼き乗せて

宮地幸二郎

懐かしき古賀メモリーよ在りし日の

西村 嘉彦

四年生になりて見直すコロナ明け

宮本 明生

浄土にも掟あるらし夢の君に

中村 智美

触れんとすれば消えてしまひぬ

三栗野ミユキ

老い夫の作れるみそ汁具たくさん

三栗野ミユキ

病めるわれには少し辛口

三栗野ミユキ

※俳句・短歌は市内の団体から提供いただいたものを順次掲載しています。